

第1章 秋田県のすがた

第1節 地勢・沿革

1 地 勢

本県は、首都東京のほぼ真北約450kmの日本海沿岸にあって面積11,613.11km²（全国第6位）、9市50町10村に区分されています。

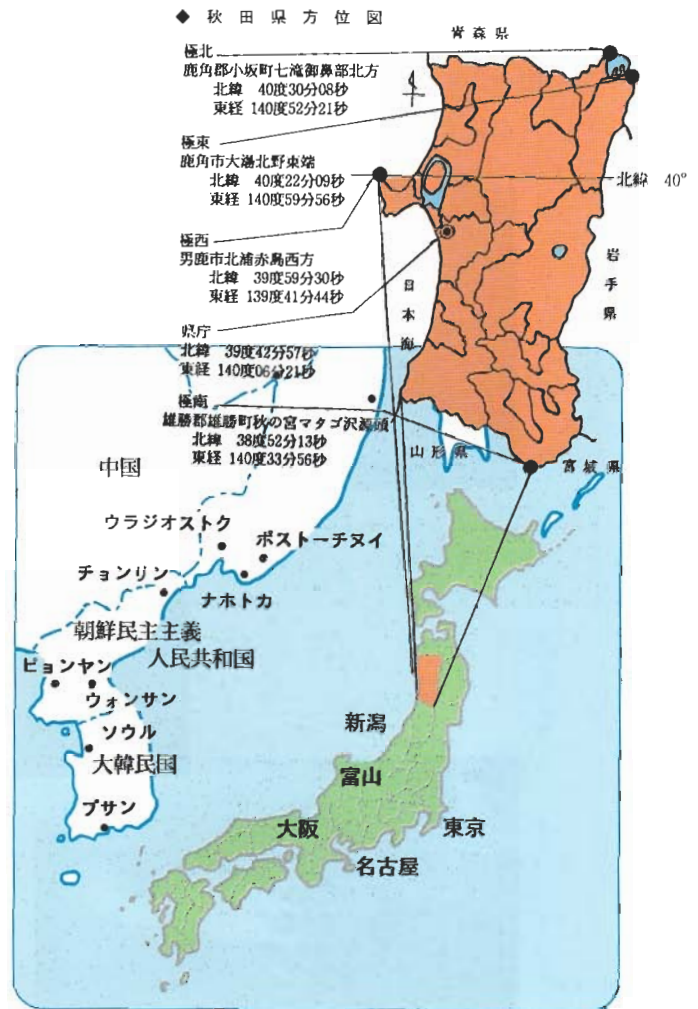
県北には、鷹巣、大館、花輪の諸盆地、県南は横手盆地などをつくり、一方、雄物川、米代川、子吉川などの河川に沿って肥沃な耕地を展開し、その下流には秋田、能代、本荘の各平野を開き多くの都市を發展させています。

2 沿 革

明治4年の廃藩置県によって、秋田県が誕生して以来、多くの人々が郷土の發展に力を尽くし、今日の秋田が築かれてきました。

昭和26年の「秋田県総合開発計画」以来、その時々を経済社会情勢に応じた計画の基本目標やテーマを設定しながら、数次にわたる総合計画を策定してきました。

今年度で2年目を迎える「秋田県新総合開発計画後期計画」では、人材の育成とソフト施策の推進を基本方向に、21世紀に生き活きと躍動する県土づくりをめざしています。

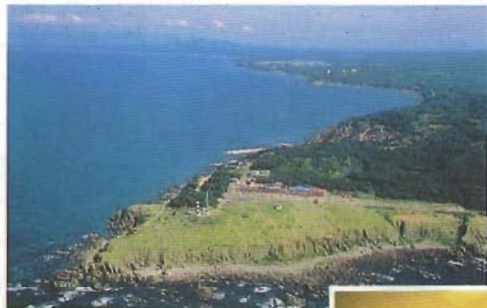


年月日	羽 後 国	陸 中 国	
明治元年	久保田領 秋山河仙平雄 田本辺北鹿勝 郡郡郡郡郡 久保田藩	亀本矢仁 田莊島賀 領領領領 由利郡 亀本矢酒(民政局) 田莊島田藩	南部領 鹿角郡 南部藩
明治3年2月24日	岩崎藩(雄勝郡東部)立藩		
明治4年1月13日	久保田藩を秋田藩と改称		
明治4年7月14日 (廃藩置県)	秋田県	岩崎県 亀田県 本荘県 矢島県 酒田県	江刺県
明治4年11月2日	秋田県及び江刺県のうちいまの鹿角市、鹿角郡を編入し、現在の秋田県を形成した。		

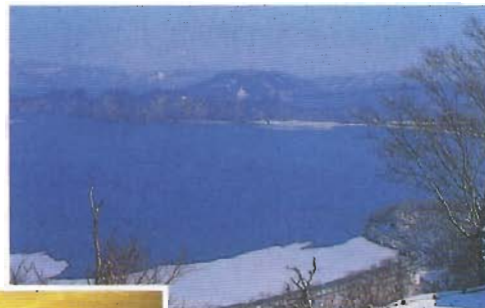
第2節 自然・気象

1 自然

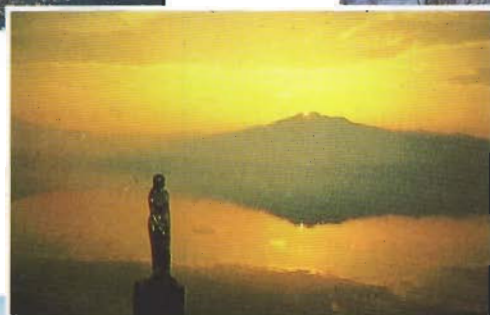
本県は、全国で6番目という広い面積をもち、春の新緑、夏の空と海の青さ、秋の紅葉、冬の雪景色といった色彩感あふれる四季の変化に富んだ自然を誇り、そのいぶきを身近に感じながら生活することができます。



北緯40°の入道崎



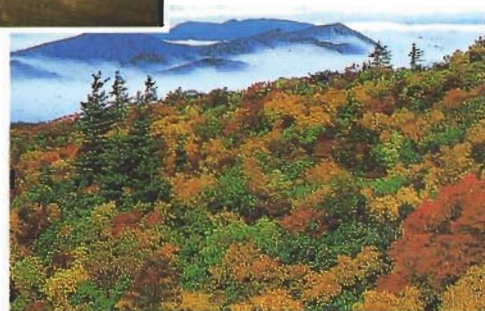
静寂の十和田湖



朝明けの田沢湖



早春の鳥海山



紅葉の栗駒

2 気象

本県は、アジア大陸の気象に影響され寒暖の差がはげしく、最高・最低気温差はおよそ40℃あります。

また、冬期は対馬暖流とシベリアからの季節風の影響により、特に山間部は積雪量が多く、24市町村が特別豪雪地帯となっています。

(平成6. 1~12)

区 分	秋 田	札 幌	仙 台	東 京
最 低 気 温 (°C)	-7.1	-14.0	-6.4	-2.3
最 高 気 温 (°C)	35.6	36.2	35.9	39.1
年 平 均 気 温 (°C)	12.1	9.5	13.1	16.9
年 降 水 量 (mm)	1,230.5	1,330.5	1,239.6	1,130.5
最 深 積 雪 (cm)	48	71	11	2

資料：「気象庁年報」

注：最深積雪に期間は、平成5年11月から、平成6年4月までである。

第3節 人口・面積

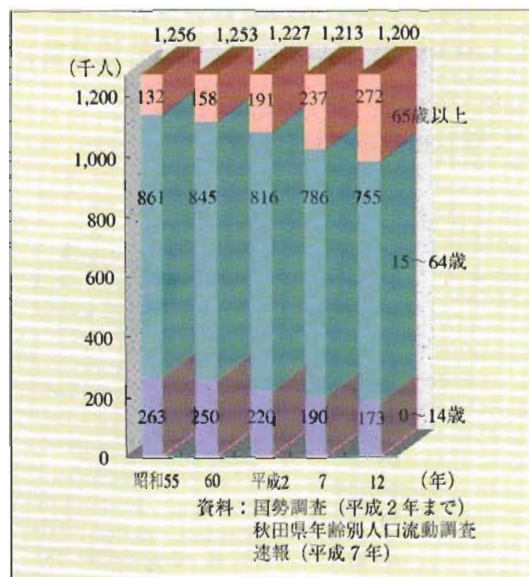
人口

本県の総人口は、昭和56年以降、減少傾向で推移し、平成7年には、1,212,639人となっています。

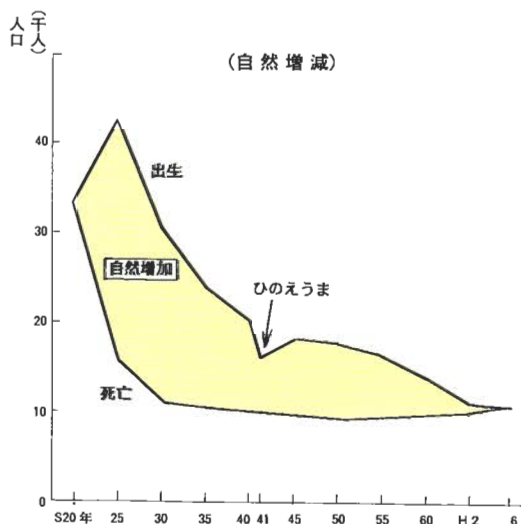
平成3年度以降の人口は、Aターン者の増加や専業主婦の県内就職率の向上などにより、社会減少率が縮小してきていますが、一方では、出生数の減少等により平成5年度から死亡数が出生数を上回る自然減少になっています。

このような現象は今後も続くことが予想されることから、平成12年の総人口は、現在よりもやや少ない1,200千人となる見通しです。

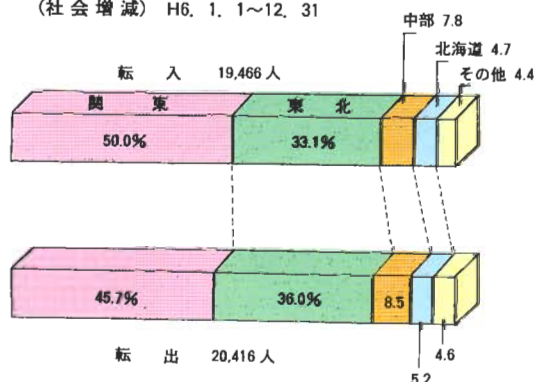
◆人口の見通し



◆人口動態



(社会増減) H6. 1. 1~12. 31



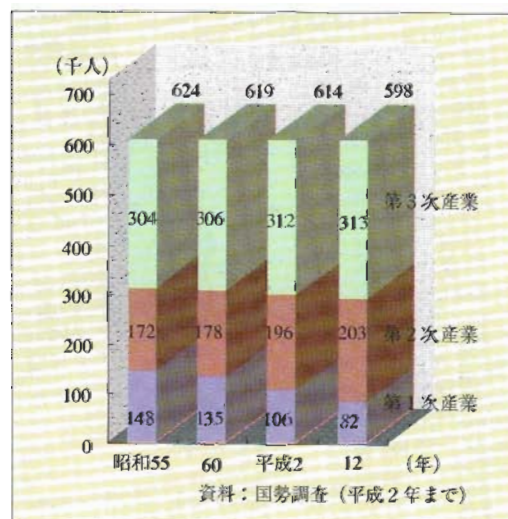
2 就業人口

就業者数は、平成5年（県民経済計算）で627千人となっています。

今後、総人口の減少と高齢化の進行などにより、就業人口の総数は減少するものと見込まれます。

また、平成12年度の産業別就業者数は、平成5年と比較して第1次産業が減少し、第2次産業、第3次産業が増加し、各々の構成比は、13.7%、34.0%、52.3%となる見通しです。

◆就業人口の見通し（従業地ベース）



3 面 積

本県の総面積は約11,613km²、全国第6位で、下位5都府県（神奈川県、沖縄県、東京都、大阪府、香川県）の合計を上回ります。

また、県土面積が広大なだけに、各市町村の面積規模も比較的大きく、県内の上位4市町（鹿角市、田沢湖町、秋田市、大館市）の合計だけで東京都を上回り、沖縄県にほぼ等しい面積になります。

◆秋田県市町村区域図

